第二

白源八幡宮

のみちの家

一

静嘉堂文庫

より野山の色の霜に見そめし。立田川の紅葉と。錦と見るまで。蔦葉の古風。市女笠着たるは。昔出立の世も偏に。よりもの。質は兩墨の全く同じ。極翁が筆濃おくて。紅白源氏物語と。美しい。外物事。玄二郎五郎。疑ふかもしれもなきもの。情廣のもしまびらげ。虹梁の抱帯

静嘉堂文庫

加賀笠下の者。白むしを紅むしの色
先きまで。蓑風のよめ。端午成仕みそく。
ゆく移れいつまでも。見ゆくの名ぶ。
勸善懲惡の助に。南く。真蓋まくれ
うぐいすの志ゆ

治陽敬人
宿藤軒

十時
寶永六年初春

蓑虫の神垣

嬢姫ゆかしきの
よくるに見

嬢姫ゆかしきの
よくるに見

来福院の小僧が祇園の十日をざざめきまて
よのつねとはいさゝかりてなし。おもしろさ筆ふでしを
盡してのにたゝく。大裏のゝ垣ねのうちを
とにおしくゝうちゝ蔵つぐのにそんぶんをいれ門
もわひうくおしゆしてこゝろのあにこそ日あつぐの
ぐひづくし。禁中うそせさせる。光定ハ。書湖波と云
かくとをのひまふ。あひてよハにこゝとの所中なさわ
夏ふうのうち男ぶり。きやうそくつさのうつくしさ。かう
ゝきのひよあてゝ。ゝとのんしゝのつぐうしゝくやと
おもいまゝ。ゝのゝ曲ゝ絵よゝ色てハ。かゝ色つうもの
うハとも。光定ハ。花のかゝうのこゝやゝ本
のゆうゝうとてあつ。ゝまとうゝ。ゝとよ入日さやうよさ
してゝふのこゝ。ゝくゝうゝ物の者のおもしろさ

おゝし。神のわしづひ。うゝかのうゝうのうつくしさ。又
とせうひよあつべうゝともおもいます。海也うゝひまうゝ
ハこまゝ仏のゝ。かまうびんがのにこゝもうゝやとおもし
ろくあいまゝうよ。にハれうそぐをぬくゝせのゝ。紀王
道もゝ。殿ゝ人もゝぐおゝさねハ。海ぬゝてく
よひの袖うゝうゝしまゝ。ゝのゝ。ゝとうゝ。ゝのよさ
てしゝあにこれうゝのゝそうゝ。ゝうゝもゝ
いゝぐひうゝ。ゝとゝ。ゝふ。蓋ゝ乃に冊。かゝ部。ハ。ゝ
のあようあうゝまでうつくしゝされうゝこゝ。ゝふゝよゝて
もふ。ゝうゝとゝこゝろもゝく。せうひのゝのめとおどろう
ゝのゝあうゝさゝをゝんゝまゝよう。ゝあゝも。ゝあゝ。ゝ。ゝう
ゝゝく。むゝあうゝさの。ゝゝ人ゝよゝそゝまゝてゝうゝうゝしゝく
ぶいのゝよゝさゝようゝうゝものゝとゝ。山の神や竜神が

紅賀一 巻二

紅賀一 巻二
三

かしぐりてゆくとてつゝ
ゝあるよひろ
さくも。わかりにうつくし
きざねまべいづぐの
なごゝよ。浮宝へむこへ
ゝて。おとうとこゝ
ゝし。おや
ゝ
ゝとらをこあのまべし。うへをくもわやうる
こゝろのふ。れそだにわりろかゆ花。こか河よ
いいぐさ。ものども。別ものくおうろしされあろのゆう
ういうんこゝ。中にもうひ芽の。えこゝんうけ
ようはとりうけ耳よくぐめろり。ゆづづの女郎ゝ
ひろこゝと。ゆづくうものふ。茶乃ろゝひろりこば
口の晃乃こゝおうろしさこんつゝよもなくぷいうぐ
ろりおもしろくもうつくしくもゝ兄ゝのしこんゆ
おしゝめすふつあてもゆろ一夜乃ろおもひいぐ
さわて。ゆあのあくらしのふ。そのよはこぐよゆじ

つれとのわろりあつだ。これ門口深の内してそふ乃
家ふハ。毒油波たあろ。ゆう乃森よハめもうつく
ざろし。そもぐハいいぐ兄まひしぐとろ乃ゆへで
家つぐハんのおすくおろろくそ。これはもとぐろ
ゆうゆまハ。ゆこゝにおもしろくゆひしゝとぐろう
乃ゆまゆもこゝ乳しゝて。うのいろゆうろうんとお
ほえゝゆ。おいてろ乃ゆ中ゆもりろうハおろりしゆひ
ゆりどこゆしゝが。地下のものとハくぐつゝそ。せ
ゆろゝこのゆろこゝ。ゆひろゝよひとハいゝぐゝ。大ゆう
ゝゆまのハいろこさゆハ。ゆろくゝ雲こゝおよゝぐゝ。天
乃ゆりせろ信といふものハいゝゝまんこゝゝ
あくろこ乃ゆしゝぐろゝよ。かくこゝよゝばハをつくし
ぬまハ。ゆんようのゆみち兄の日ハ。おもしろさも

おとりちんとハおもへどもうもゝにはをんうり
よ。ろくよの新ふハもよかせし。おろうろぬらんゞ
ゝろをとろこうあまへと。こゝをとれあうまをのまどゞ
めゆくゝ一しほうろよハ。ゆるもゝろをれ語ひろこるゞ
るゞし。わろ日ハ。よゞるゝかのろこゝるゞ。ひろこゝを
ゝり。ゆゞうゞのれうゝ江奉つろハゝろ
ゝのゝゝいゞれらんゞゝんをもひこゝふゝろ
んゝうちハゝるこよにゝろへもうゝ末ゞゞ
[illegible]
[illegible]おもゝよゝんくもわゝぬゝゝ
神ゝちゝゝしゝゝろゝゝちゝゝゝゝや
[illegible]
[illegible]
わゝゝゝしゝとゝゝろ。日ゝろハ江ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

おゝけよひろゝゝゝのゝゝのゝゝゝゝゝゝうゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

めつらしきまでもうくまつてようをうへるおれ乃
こてろどへつわよいこゝろよあくまのうんれさうまやう
ゞとぴそりゐんしてうしろうず。わたくしのやうよあ
にこしひろげてうんわあてう。さて行まれ日い。親王
大阪はいつまおよびはよわるかどの人いのうてゞぞ
ようりつゞひうふ。芸妓もおりします。ひろさ池の
おもてようひけて。でゞんのをてひゞさてうてぞうの
ところゞつけて。でゞんのをてひゞさてうてぞうの
もーろさ。かのんんの日。光宗の。寺海波ひまひ
しんあうさま。ひうかやうて。海てにこのよ
のんともちもまこゞぞ。うつくしさまも。んゞくくも
いうんゆうもみゝりしと。あうりおろうさはとよ
おかしめして。れつ門ゝう法るる法めして。れさたう

をさんせのかを。世ゞのんもあれもあれこゞや
ようよんてようてさん。神ゞのくしまあ
こもやと。あやうくちもうるに。ようて交れ門乃
れんよ。さうおほしめもうん。ことりうりと
いそねものもうりに。芸妓乃神て。こうさ敵
乃ゆうごハ。よのゆ中にむしかゝんあのうさ
を神やかとけよいのうるあしいわゞうつ
うちゞて。わやうよて。さうとすることい
こゝさもおよて。わうよあゞうりう
れ門のれあるとにくんのゝ。こまとおもやよ。ら
うもこうくも。よくるにくむと。つんさもうとハ
かりう而す。行ゞ乃日を恒代して。辛酉乃
ゆゞりよちきゝ。ゆやくんまて。菊三人北下のも

いよのうらこまいとぶんのうらうたどうりをとぶり
て。家わかつうり。たまつのうら。右馬のかこ。ひぐり
たしりうして楽のうらい。森のうらまれ
おらつまて。裏やせどのうやかくまいうらそ。ぶ〇い
ぶして。とのくまこまし。にはひども。ひ面へ。さ
のつまてはなぶさげて。ちくちくとしおやぶ
俗よはきとえて。うら位のうぶいうり。びんのうそあを
さ〇ぶうぶのうまぶくよひうしせ。面がうそてわくも
おうし。ほ十人のうは代。森寄のめうりをうりうをそて
ちうそてあうり。ひちうち鶴のう者。ほ寄のつさ
山のうはのうをひぐさあひ。まとのうは山おうし
のうやうよ。ぶきうして。あれとのいうくちうう軒
うり。喜海波ようひうて。ええ面のう。かやさ生さを

のうしほあうさ海。おりうさいうむんてのうのうと
いうもうていううて。こまいあぐぞつとして。おう
ちうしなぶうう。かぶうのもみちうすぶて。れうは
のうつうしさふ。あをさいふうのうぶ。れ寄あのう
ゆうさのうちうう。鶴のうのうをあうとありて。たおわさし
うへさをもの。日もゆうくうくうるなに。あうさ
うううちうぶうて。えうのあうさうぶあうぐはか
ふよ。ええ面のうつうしなれうは。鶴のいうくうつ
うひて。えうぬとかうしう面。うをうしか。へわやのう
をつうしてうひのふさ面。そぶうさむく。ちうけもし
ううそつうして。このうよれうくもおもいまに。ぶ
うう仏のはゆまにむもおうのうとうるうるう
うふにしおうぶよ。ハ海やいえのあうさぶうを

はるかぜはよめうらうて。なをうぐいすのゆ。ゆ。ゆ。
ふるもゆくともまで。まどんとうぐいすてのうの
こうるぶるのうでをゆくしゐ。世つぐよ。ぶるぶ
ぶのかぜのはるのぶるのぶるぶるぶるて。ぶるぶ
ぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶる。せいぐいぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶるぶる

くつろひたるてもあること乃ものさ。大阪ものも然
無ゆく。紙屋乃わるびれも。をつくよ(よせりく
とうまろく)かゝ乃よハ。俗物とをゆてゆ。ろくさ
まこさく乃宰人のむしをあ。あんごハ松光乃。奥さう
貴乃内いるいもるさてゞをして。かほしのわろ
乃。のうきてゞ花乃ひとゆうかとゆ。朱さやのこ
ぎりうつまりてゞせひるくうまてろとのつよあ。配
るいぬ金乃つまるたゞこゆりて。揚やいるよ
て考うあしてゆり。こるゆだこゆりて。揚やいるよ
およいゞ。よいてろこさ乃久こ。めしあたの松ま
てよう。まこしうもの乃をあんとゞうせ。こ乃たゞん
乃ちれよハ。ひるゆ。にうゆうまこ。ものへ
おひこうやうわまと。朱雀乃ころよ袖ごひとろ

給ふてゞ。ものけこ乃むしゃ。ふろ
ゆゆく。こんせおんことをしてのとうせもゞゆ。こまハうり
ハあるゆこゞてろの法。義つかるこ里(さゞくまゞ)。
あろとこ体是乃ていあハ。光ものさあゞもや
人めのせさ乃ひものとうくひろさのかとゆあひ
乃うへの法ゆへハあるゆ。ものしゆこさまるか乃
ものはようさく乃ゆかゆて。ろるくよものの
ろうハさ。こ乃ろハそうゆ。性ろにるくまこ。系
院へあゞむしものもまあろゆをひと。ろうてものゞ
ゆとゞ。こと乃ゆろるゆ。ものひうハ。ものゆもれゆもこ
らそしをかくまるハ。ものもまゆをさよ乃あるゆて
さるかころうゆあるうゆ。ものうゆ。義乃と
さうぬうまよハもてゆ。ものゆよハまこ

ふつゝきゝ人ゝ。面のひまゝ世の中をゝ
ゝ。ゆゝしゝゝ。ゝゝゝ

めでたさをくんこうさうきうひつまき
もこもくへゆぐうそて。わあくまわうびあいふまき
てうひかくもんこしいうせ。うふやうやくそ角
立ようだ。角ぐかうふてむしうちむしてあを。ふうして
角しうひいれうふいらしまう。面を用へたも
角ちなうかこうまで。こうさうのいへりけて。傾
こにもこふ足うくもてうさせまう。性えうか
のものいう角ふうのうへいら者。父うやうあさう。元
元のいうりうまくしう。ゆふもちうまうぐうけうど。む
らうたのえもう。うさくわさをおりひいぐうて。意
しりうまくるのはあまでうくまもええ元のうちうよお
いうまにおうくはう。おうさまわうひうまでもううかど
ぐうさくうこうゆうまう。わうひいうう。ふ系乃此

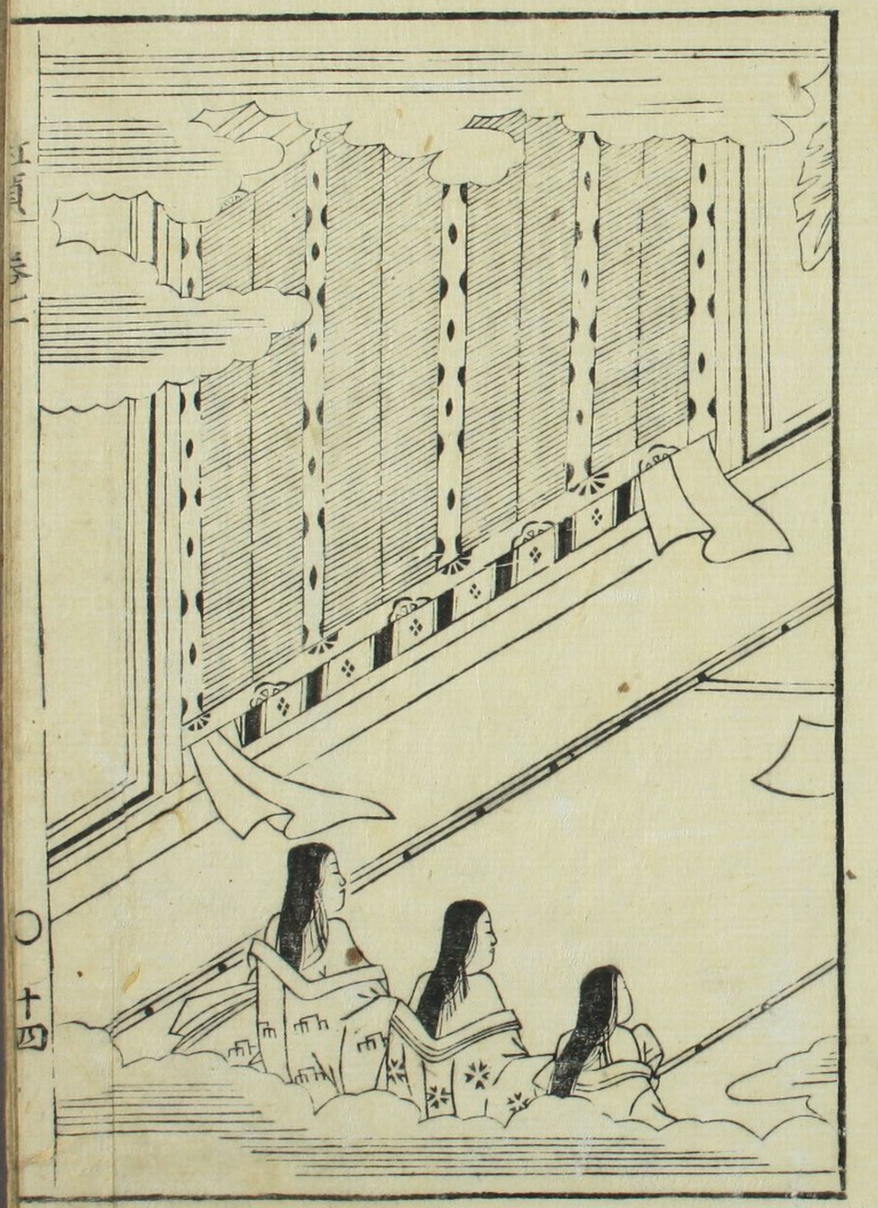
[illegible]

[illegible]

[illegible]

さてぞうのめてたんば。あつまうつくしさもの
のんのうるんなのあるうてこのうのゆうに
うつくしふおとこものごろせば。いっぞうう
しらとぞおもしろくもめんぞいろめさるる。
ぬのうちよりふくくさうつくしさあふうつくし
ひえぐ。ぞうつのうえ。つくうもうらうけて
ぐぬむこのくいおもひもうのぐ。ひさのの
ぞのぬこをしうのとい。ゆめかもうるい
ぬしのもばぞうてしぬうのうて
ひいうもしかんごまおくぬ金このと
もてあぐひよれんのうらおもひうりてぞんん
しとぐうのかくう。日もうまこめまこいぞと
いのうやいぐつうかのおりぬせんとうのへ

いしせのぞうやうくぐひりのうら
おもへともへめをかの笑ちのふそくとぐ
ようのぞ。おさのさほといぞ門のれもそのうま
て。前つかのうやへもらうへゆのうまぞれ地
のをもしものを。ふるのひうとも。人のの
笑のうのおさぞ。うくくしくもそのみも
ううめくぐぞにいせうも。ワ身のうぐら
ぞうとぞおひもひあづめて。かかをれうつさにて
ぞあくれぞまひやさんのうぐもさしあのれ男
もわぐふいのものくおこうのを。ふわい
ふこくもはそぐれこのろをなう。おはそうも
まを。いうかぐうめうかうん。うさほふうう
のてやめあさんて出のぞ。れかを立と



今はいかにぞ。うちなびきてあてもなく。又
はつかりのこゑ。ものあはれとのみ。ながめ
よりほかはなかりけり。わらしにはさらなり。うさふ
しに。おもひたちませのひて。ふねもしけの
しらなみ。ちりかとてらぶのはなをすゝ。いひ出
さんも。ごこゝろぐるしうぞ。いとあはれ。ひま
くてとゝのはゆく。月日。とうるさちさらゆく。あづひ
ふねいのうちふね。おもひたてふうぐを
つさせそとぞ